

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7366596号
(P7366596)

(45)発行日 令和5年10月23日(2023.10.23)

(24)登録日 令和5年10月13日(2023.10.13)

(51)国際特許分類

F I

A 6 1 H 7/00 (2006.01)

A 6 1 H 7/00 3 2 3 Z

A 6 1 H 7/00 3 2 2 D

請求項の数 4 (全10頁)

(21)出願番号	特願2019-111177(P2019-111177)	(73)特許権者	000136491
(22)出願日	令和1年6月14日(2019.6.14)		株式会社フジ医療器
(65)公開番号	特開2020-202914(P2020-202914 A)		大阪府大阪市中央区農人橋1丁目1番2 2号
(43)公開日	令和2年12月24日(2020.12.24)	(74)代理人	110001933
審査請求日	令和4年4月15日(2022.4.15)		弁理士法人 佐野特許事務所
		(72)発明者	古谷 毅
			大阪府大阪市中央区農人橋1丁目1番2 2号 株式会社フジ医療器内
		審査官	菊地 牧子

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 マッサージ機

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

既存の椅子に設置された状態で使用するマッサージ機であって、
被施療者の背中が接する背部と、
前記被施療者の前腕を凹部内に収納して施療する前腕施療部と、
を備え、
前記前腕施療部は、左右方向に沿って延びる回転軸回りに回転可能に、前記背部の左右
両端に取り付けられ、
前記前腕施療部の回転可能範囲には、ひじが曲がった状態とひじが伸びた状態とが含ま
れ、
前記前腕施療部は、
前記凹部が前腕の出し入れを可能とするように開口しており、
前記凹部は、
前記被施療者のひじが曲がった状態にある場合、前記上側に向けて開口するように形成
され、
前記前腕施療部は、
前記被施療者のひじが伸びた状態にある場合、前記凹部が前記被施療者の前側に向けて
開口するように前記被施療者の背側に向かって凹んだ形状を有し、
前記背部が位置固定の状態であって、かつ、前記被施療者のひじが伸びた状態にある場
合、前記前腕施療部の手を収納する側が下側になる、

マッサージ機。

【請求項 2】

前記背部に対する前記前腕施療部の左右方向位置を調整可能な調整部を備える、請求項 1 に記載のマッサージ機。

【請求項 3】

左右方向に沿って延びるベルトを備え、

前記ベルトは前記背部の背面側に設けられ、前記ベルトの両端は前記背部に固定される、請求項 1 又は請求項 2 に記載のマッサージ機。

【請求項 4】

前記前腕施療部は、エアバッグを備え、

前記マッサージ機は、前記エアバッグに空気を供給するエアポンプを収納するエアポンプ収納部を前記背部及び前記前腕施療部とは別体で備える、請求項 1 ～ 3 のいずれか一項に記載のマッサージ機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、既存の椅子に設置することで被施療者に対して施療を行うことができるマッサージ機に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、既存の椅子に設置することで被施療者に対して施療を行うことができるマッサージ機が種々開発されている（例えば特許文献 1 参照）。このようなマッサージ機は、外形がシート状であることから、シートマッサージャーと呼ばれている。

【0003】

また従来、被施療者の前腕に施療ユニットを巻き付けることで被施療者の前腕に対して施療を行うことができるマッサージ機が種々開発されている（例えば特許文献 2 参照）。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【文献】特開 2001 - 314471 号公報（図 14）
特開 2006 - 333983 号公報（段落 0002）

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

しかしながら、特許文献 1 で提案されているマッサージ機は、被施療者の前腕に対して施療を行うことができない。

【0006】

また、特許文献 2 で提案されているマッサージ機は、被施療者の前腕に施療ユニットを巻き付ける必要があるため、準備、取り外し、収納に手間がかかり利便性に欠ける。

【0007】

本発明は、上記の状況に鑑み、既存の椅子に設置することで被施療者の前腕に対して施療を行うことができるマッサージ機を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0008】

本明細書中に開示されているマッサージ機は、被施療者の背中が接する背部と、前記被施療者の前腕を施療する前腕施療部と、を備え、前記前腕施療部は、左右方向に沿って延びる回転軸回りに回転可能に、前記背部の左右両端に取り付けられる構成（第 1 の構成）である。

【0009】

上記第 1 の構成のマッサージ機において、前記背部に対する前記前腕施療部の左右方向

10

20

30

40

50

位置を調整可能な調整部を備える構成（第２の構成）にしてもよい。

【００１０】

上記第１又は第２の構成のマッサージ機において、左右方向に沿って延びるベルトを備え、前記ベルトは前記背部の背面側に設けられ、前記ベルトの両端は前記背部に固定される構成（第３の構成）にしてもよい。

【００１１】

上記第１～第３いずれかの構成のマッサージ機において、前記前腕施療部は、エアバッグを備え、前記マッサージ機は、前記エアバッグに空気を供給するエアポンプを収納するエアポンプ収納部を前記背部及び前記前腕施療部とは別体で備える構成（第４の構成）にしてもよい。

10

【発明の効果】

【００１２】

本明細書中に開示されているマッサージ機によれば、既存の椅子に設置することで被施療者の前腕に対して施療を行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【００１３】

【図１】一実施例に係るマッサージ機の斜視図

【図２】一実施例に係るマッサージ機の使用例を示す図

【図３】一実施例に係るマッサージ機の使用例を示す図

【図４】一実施例に係るマッサージ機の使用例を示す図

20

【図５】一実施例に係るマッサージ機の使用例を示す図

【図６】一実施例に係るマッサージ機の使用例を示す図

【図７】一実施例に係るマッサージ機の斜視図

【図８】一実施例に係るマッサージ機の後方斜視図

【図９】変形例に係るマッサージ機の斜視図

【発明を実施するための形態】

【００１４】

以下、本発明の例示的な実施形態について、図面を参照しながら詳細に説明する。

【００１５】

図１は一実施例に係るマッサージ機１（以下、「マッサージ機１」と称す）の斜視図である。マッサージ機１は椅子に設置された状態で使用される（後述する図２～図６参照）。

30

【００１６】

以下の説明において、背部２に背中が接している被施療者から見て前側（正面側）を「前側」といい、後側（背面側）を「後側」という。また、背部２に背中が接している被施療者から見て上側（頭側）を「上側」といい、下側（脚側）を「下側」という。また、背部２に背中が接している被施療者から見て右側を「右側」といい、左側を「左側」という。

【００１７】

マッサージ機１は、背部２と、左右一対の前腕施療部３Ｌ及び３Ｒと、を備える。

【００１８】

背部２は、被施療者がマッサージ機１を使用する際に被施療者の背中が接する。

40

【００１９】

前腕施療部３Ｌは、左右方向に沿って延びる回転軸Ｘ１回りに回転可能に、背部２の左端上部に取り付けられる。前腕施療部３Ｒは、左右方向に沿って延びる回転軸Ｘ１回りに回転可能に、背部２の右側面に取り付けられる。

【００２０】

前腕施療部３Ｌ及び３Ｒが背部２に対して回転可能に取り付けられることにより、マッサージ機１を既存の様々な椅子に設置することができる。例えば、図２に示すようにひじ掛け部のない椅子にマッサージ機１を設置して使用することができる。また、図３に示すようにひじ掛け部のある椅子にマッサージ機１を設置して使用することができる。また、図４に示すように座椅子にマッサージ機１を設置して使用することができる。また、図５

50

に示すようにリクライニング機構を有し背もたれ部を倒した状態にしている座椅子にマッサージ機 1 を設置して使用することができる。また、図 6 に示すようにソファにマッサージ機 1 を設置して使用することができる。

【 0 0 2 1 】

前腕施療部 3 L 及び 3 R の回転可能範囲は、例えば制限を設けず 3 6 0 ° 回転するようにしてもよく、例えば 0 ° ~ 9 0 ° の範囲にしてもよい。ここで、0 ° とは、図 2 に示す状態、すなわち、前腕施療部 3 L 及び 3 R の手を収納する側が下側にある状態で前腕施療部 3 L 及び 3 R の長手方向が上下方向に沿っている状態をいう。また、9 0 ° とは、図 7 に示す θ が 9 0 ° である状態、すなわち、前腕施療部 3 L 及び 3 R の手を収納する側が前側にある状態で前腕施療部 3 L 及び 3 R の長手方向が前後方向に沿っている状態をいう。

10

【 0 0 2 2 】

前腕施療部 3 L の凹部は、被施療者の前腕背側に向かって凹み、被施療者の左前腕及び左手を収納する。前腕施療部 3 L は、必ずしも被施療者の左前腕及び左手の全部を収納していなくてもよく、被施療者の左前腕の少なくとも一部を収納していればよい。前腕施療部 3 L の凹部にはエアバッグ（不図示）が設けられる。前腕施療部 3 L の凹部に設けられるエアバッグの膨縮によって被施療者の左前腕及び左手がマッサージされる。前腕施療部 3 L は、必ずしも被施療者の左前腕及び左手の全部をマッサージ可能な構成でなくてもよく、被施療者の左前腕の少なくとも一部をマッサージ可能な構成であればよい。

【 0 0 2 3 】

前腕施療部 3 R の凹部は、被施療者の前腕背側に向かって凹み、被施療者の右前腕及び右手を収納する。前腕施療部 3 R は、必ずしも被施療者の右前腕及び右手の全部を収納していなくてもよく、被施療者の右前腕の少なくとも一部を収納していればよい。前腕施療部 3 R の凹部にはエアバッグ（不図示）が設けられる。前腕施療部 3 R の凹部に設けられるエアバッグの膨縮によって被施療者の右前腕及び右手がマッサージされる。前腕施療部 3 R は、必ずしも被施療者の右前腕及び右手の全部をマッサージ可能な構成でなくてもよく、被施療者の右前腕の少なくとも一部をマッサージ可能な構成であればよい。

20

【 0 0 2 4 】

なお、前腕施療部 3 L 及び 3 R が被施療者の前腕及び手に対して行う施療は、マッサージに限定されず、物理的手段を用いて行われる施療であればよい。したがって、前腕施療部 3 L 及び 3 R が被施療者の前腕及び手に対して行う施療は、例えば、前腕及び手に熱を与える施療、被施療部に電気刺激を与える施療等であってもよい。前腕施療部 3 L 及び 3 R は、例えば、施療子、エアバッグ、振動子、ヒーター、電極パッド等を単独又は複数の組み合わせで含む構成であってもよい。

30

【 0 0 2 5 】

マッサージ機 1 は、背部 2 に対する前腕施療部 3 L の左右方向位置を調整可能な左側調整部（不図示）と、背部 2 に対する前腕施療部 3 R の左右方向位置を調整可能な右側調整部（不図示）と、を備える。左側調整部及び右側調整部を設けることで、被施療者の前腕に対する施療位置を被施療者の横幅に応じて調整することができる。

【 0 0 2 6 】

例えば、背部 2 を左右方向に貫通し、左側で背部 2 と前腕施療部 3 L とを連結し、右側で背部 2 と前腕施療部 3 R とを連結するシャフト 4 を、左側で長手方向（左右方向）に伸縮可能な構造にすることで、シャフト 4 を左側調整部として用いることができる。同様に、例えば、シャフト 4 を、右側で長手方向（左右方向）に伸縮可能な構造にすることで、シャフト 4 を右側調整部として用いることができる。なお、本実施例とは異なり、1 本のシャフト 4 の代わりに、例えば 2 本のシャフト、具体的には、長手方向（左右方向）に伸縮可能な構造であって背部 2 と前腕施療部 3 L とを連結する左側シャフト、及び、長手方向（左右方向）に伸縮可能な構造であって背部 2 と前腕施療部 3 R とを連結する右側シャフトを用いてもよい。

40

【 0 0 2 7 】

マッサージ機 1 は、左右方向に沿って延びるベルト 5 を備える。ベルト 5 は背部 2 の背

50

面 2 A 側に設けられる。ベルト 5 の両端は背部 2 に固定される。これにより、図 8 に示すように背部 2 の背面 2 A とベルト 5 との間に椅子の背凭れ部 6 を挟むことができ、被施療者が椅子に着座していないときにマッサージ機 1 が倒れることを防止することができる。なお、背凭れ部 6 の様々な形状に対応できるように、ベルト 5 は左右方向に伸縮可能な弾性特性を有することが望ましい。

【 0 0 2 8 】

上記実施形態は、全ての点で例示であって、制限的なものではないと考えられるべきであり、本発明の技術的範囲は、上記実施形態の説明ではなく、特許請求の範囲によって示されるものであり、特許請求の範囲と均等の意味及び範囲内に属する全ての変更が含まれると理解されるべきである。

10

【 0 0 2 9 】

マッサージ機 1 は、前腕施療部 3 L 及び 3 R の各凹部に設けられるエアバッグを備えるので、当該エアバッグに空気を供給するエアポンプも備える。エアポンプの配置場所は特に限定されないが、マッサージ機 1 では、背部 2、前腕施療部 3 L、及び前腕施療部 3 R のいずれかにエアポンプが配置される。左右の重量バランスを良好にするために、背部 2 の左右方向中央にエアポンプを設けることが望ましい。

【 0 0 3 0 】

なお、上述したマッサージ機 1 とは異なり、図 9 に示すマッサージ機 1' のように、エアポンプを収納するエアポンプ収納部 7 を背部 2 並びに前腕施療部 3 L 及び 3 R とは別体で設けてもよい。この場合、エアポンプ収納部 7 と前腕施療部 3 L 及び 3 R とは可撓性を有するエアホース 8 を介して接続され、エアポンプ収納部 7 内のエアポンプからエアホース 8 を介して前腕施療部 3 L 及び 3 R の各エアバッグに空気が供給される。

20

【 0 0 3 1 】

図 9 に示すマッサージ機 1' では、エアポンプ収納部 7 と背部 2 並びに前腕施療部 3 L 及び 3 R とが別体であるため、椅子に設置される部分（背部 2 並びに前腕施療部 3 L 及び 3 R）の軽量化を図ることができる。これにより、背部 2 並びに前腕施療部 3 L 及び 3 R を椅子に設置する作業が楽になる。同様に、背部 2 並びに前腕施療部 3 L 及び 3 R を椅子から撤去する作業が楽になる。

【 0 0 3 2 】

また例えば、被施療者の背中及び腰の少なくとも一部を施療する施療部を背部 2 に設けてもよい。背部 2 に設けられる施療部が被施療者の背中及び腰の少なくとも一部に対して行う施療は、物理的手段を用いて行われる施療であればよい。したがって、背部 2 に設けられる施療部が被施療者の背中及び腰の少なくとも一部に対して行う施療は、例えば、被施療部に熱を与える施療、被施療部に電気刺激を与える施療等であってもよい。背部 2 に設けられる施療部は、例えば、施療子、エアバッグ、振動子、ヒーター、電極パッド等を単独又は複数の組み合わせで含む構成であってもよい。

30

【 0 0 3 3 】

上述したマッサージ機 1 は座部を備えない構成であるが、背部の下端に後端が連結される座部を備える構成にしてもよい。当該座部は椅子の座面上に設置される。被施療者の臀部及び大腿部の少なくとも一部を施療する施療部を座部に設けてもよい。座部に設けられる施療部が被施療者の臀部及び大腿部の少なくとも一部に対して行う施療は、物理的手段を用いて行われる施療であればよい。したがって、座部に設けられる施療部が被施療者の臀部及び大腿部の少なくとも一部に対して行う施療は、例えば、被施療部に熱を与える施療、被施療部に電気刺激を与える施療等であってもよい。座部に設けられる施療部は、例えば、施療子、エアバッグ、振動子、ヒーター、電極パッド等を単独又は複数の組み合わせで含む構成であってもよい。

40

【 0 0 3 4 】

また例えば、上述した実施例とは異なり、前腕施療部 3 L の凹部が右方向に向かって凹み、前腕施療部 3 R の凹部が左方向に向かって凹むようにしてもよい。この場合、被施療者は腕を左右に広げることで前腕施療部 3 L 及び 3 R から腕を抜き出すことができるので

50

、前腕施療部 3 L 及び 3 R からの腕の抜き出し動作が楽になる。

【符号の説明】

【 0 0 3 5 】

1、1' ー実施例に係るマッサージ機

2 背部

3 L、3 R 前腕施療部

4 シャフト

5 ベルト

6 椅子の背凭れ部

7 エアポンプ収納部

8 エアホース

10

20

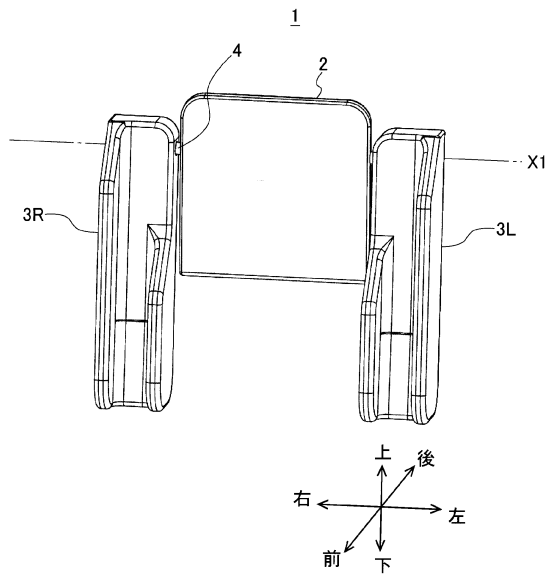
30

40

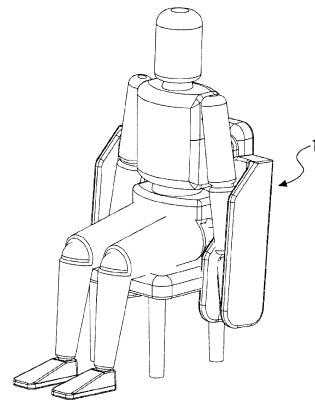
50

【図面】

【図 1】



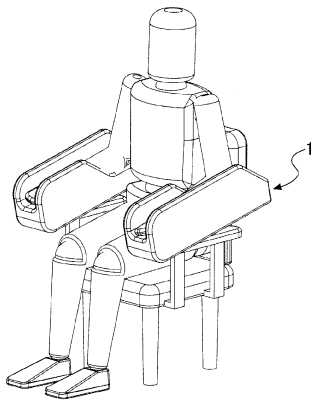
【図 2】



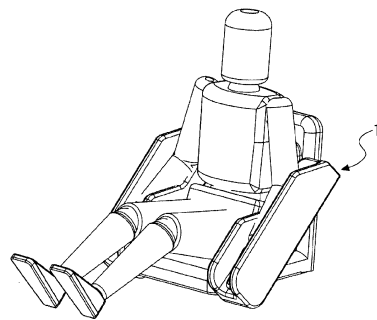
10

20

【図 3】



【図 4】

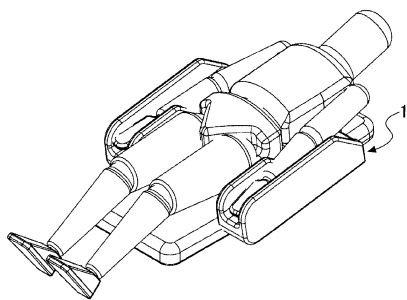


30

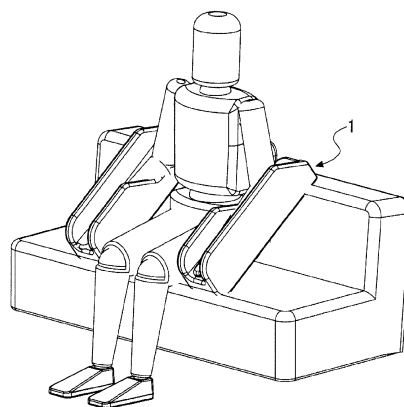
40

50

【図 5】

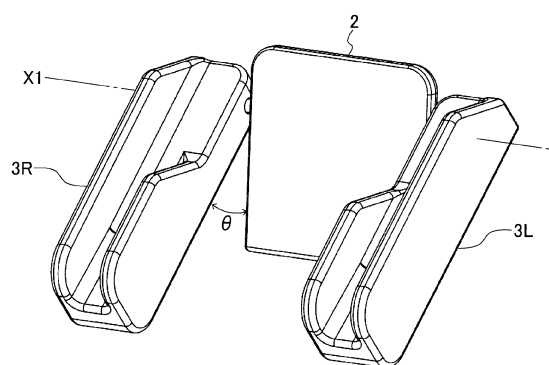


【図 6】

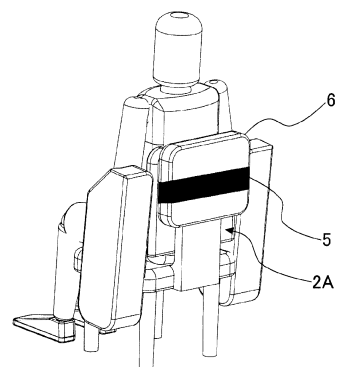


10

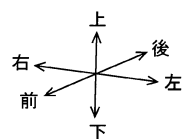
【図 7】



【図 8】



20

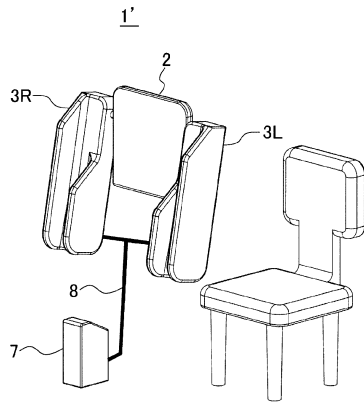


30

40

50

【 図 9 】



10

20

30

40

50

フロントページの続き

- (56)参考文献 米国特許第 0 6 0 0 3 9 4 0 (U S , A)
中国実用新案第 2 0 3 0 0 0 0 8 9 (C N , U)
米国特許出願公開第 2 0 1 5 / 0 3 6 6 7 4 6 (U S , A 1)
特開平 1 1 - 1 1 3 6 7 5 (J P , A)
中国特許出願公開第 1 0 6 2 1 4 4 4 5 (C N , A)
特開 2 0 0 8 - 1 8 8 0 5 5 (J P , A)
米国特許出願公開第 2 0 0 8 / 0 2 2 9 5 0 4 (U S , A 1)
特開 2 0 0 0 - 3 1 6 9 3 1 (J P , A)
特開 2 0 1 0 - 0 4 6 3 6 7 (J P , A)
- (58)調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)
A 6 1 H 7 / 0 0